



免許返納リスクの情報提示による意識変容 についての研究

京都大学大学院工学研究科 中尾聡史・田中皓介
モビリティプロモーション代表・バスぷら博士 大野悠貴

背景・目的

交通事故リスク

- ・高齢化の進行による高齢者ドライバーの増加
- ・池袋の事故に代表されるような高齢者ドライバーによる事故の発生

高齢者の免許返納の**社会問題化**
「高齢者＝危険運転、免許返納」のイメージが定着

健康リスク

しかし、免許返納することによるリスクも。。。

- ①返納による入院、抑うつリスクの増加
- ②返納後に要介護認定リスクの増加

高齢者への**健康リスク**への配慮が必要

ジレンマ

<免許返納しない場合> 返納せず運転継続 → 事故リスク増大

<免許返納する場合> 返納して運転中止 → 健康リスク増大

免許返納問題において、事故リスクと健康リスクのどちらかを受け入れなければならない**ジレンマ状況**が発生している。

目的

ジレンマを解消するための情報を考案し、その情報の提示がもたらす効果を検証する。

具体的には、免許返納による**健康リスク**を提示することを通じて、**返納前**からの交通行動変容の重要性に関する情報提供を行い、その効果を検証する。

既往研究では、

- ①免許返納後、公共交通を利用できる環境であっても、公共交通を利用せず、外出頻度が減少している
- ②返納前の**運転頻度が少ない**人程、返納後の生活に困っていない

返納「前」から公共交通を利用する生活に慣れておくことが重要！！
(現在の政策では、返納「後」に公共交通チケットを配布するなど、返納前の交通行動変容に焦点が当てられていない。。)

マイカー依存の場合

マイカー依存 公共交通利用慣習なし → 公共交通が整っていても活用できない。。。返納後の行動変容は難しい。 → 外出減少 健康リスク増

移動の多様性(冗長性)がある場合

返納前の交通行動の見直し **マイカー依存脱却** → 外出手段を確保 → 健康リスク減

調査概要

対象: 全国の65歳以上の運転免許を保有している高齢者

手法: Webアンケート

調査期間: 2024年1月5日~9日

サンプル数: 1000名

※免許は持っているが、普段運転をしていない被験者を除いた819名を分析対象とした。

事故リスク

近年、高齢者の運転による交通死亡事故が増加しています。平成31年に池袋で発生した高齢者ドライバーによる死亡事故は世論に大きな影響を与え、高齢者による自動車の運転が問題視されました。実際、加齢による身体能力の低下によって、運転能力が低下することから、高齢になるにつれ事故リスクが高まることが明らかにされています。こうしたことから、多くの自治体では、高齢者に運転免許証を自主返納することが推奨されています。また、75歳以上の高齢者は、免許更新時に認知機能検査を受ける必要があり、予期せぬ形で突然、運転免許を手放さなければならないかもしれません。

健康リスク

しかし、免許を返納することで移動手段がなくなってしまうことに対して、高齢者が大きな不安を抱えていることも事実です。実際、運転免許を返納することで、外出機会が減少し、要介護リスクが高まることも近年の研究によって明らかにされています。例えば、マイカーに依存した暮らしを送ってきた高齢者は、免許返納後に公共交通を利用できる地域環境であっても、公共交通を使いこなせず、外出が困難になっているケースも報告されています。

対策

元気なうちにマイカーに依存した生活から脱却し、バスや電車といった公共交通、さらには自転車や徒歩での移動に慣れておくことが大切です。自らの交通行動を見直し、返納後の暮らしをイメージしておきましょう。

結果

項目	m.pre	m.post	平均差	t 値	p 値	
統制群	公共交通	3.13	3.18	0.05	1.69	0.092
	自転車	2.42	2.47	0.05	1.51	0.132
	徒歩	3.20	3.25	0.06	1.94	0.053
実験群	自動車	2.72	2.67	-0.06	-2.07	0.039
	公共交通	3.08	3.15	0.08	2.59	0.010
	徒歩	3.20	3.26	0.07	2.33	0.020
	自転車	2.48	2.46	-0.02	-0.54	0.591
	自動車	2.72	2.69	-0.03	-1.00	0.318

統制群: 自動車のみ有意。
➢運転を控えさせる効果はある。
➔移動手段を**減少**させる。

実験群: 公共交通、徒歩が有意
➢今までよりも徒歩や公共交通の利用を促す効果がある。
➔移動手段を**増加**させる。

従属変数: 免許返納不安post2

変数	係数	F値	p 値
切片	0.657	111.5	0.000
免許返納不安pre	0.839	1675	0.000
群	-0.080	5.576	0.018

免許返納不安 (共分散分析)

— 有意な差があるペア

◆事故リスクのみでは、移動手段を**減少**させる。
◆健康リスクも提示することで、移動手段を**増加**させる。
⇒健康リスクを提示することで、移動手段の多様性が確保され、免許返納による**健康リスクを低減**できる可能性がある。
※ただし、統制群・実験群の比較を行ったが、群間に有意な差は確認されなかった。

◆免許返納の健康リスク(免許返納によるデメリット)を伝えた場合であっても、**免許返納意識は向上し、不安がより低減**する。

結論

免許返納によるリスクである健康リスクの提示は、
➢免許返納前からの**公共交通と徒歩の利用意図を促進**させる可能性がある。
➢免許返納不安をより**低減**させる効果がある。

本研究の知見に基づいて、

- ・ワークショップを行いました
⇒PB29「免許返納リスクの情報提示による意識・行動変容方策の実践研究」もぜひご覧ください！！
- ・マンガ冊子「今からはじめる！おでかけの準備運動のススメ」を作成しました。ご自由にお取りください↓